

インターバンクの声（2014年8月1日）

ドル円取引からの収益計上を半ば諦めていた円クロス担当のディーラー達にとっても、ようやく新たな相場展開が期待できそうな雰囲気になってきた。昨日も米第2・四半期 GDP や米連邦公開市場委員会（FOMC）後からのドル買いにバイアスが掛った状態が継続していたようだが、ドル円については再度103円越えに挑戦したものの一瞬触れただけに終わってしまった。最近の失業保険申請件数や各種景況指標の雇用部門の数字からみて、今晚の雇用統計結果が極端に悪化するようなこともないと思われるが、103円台を買い上げるのは取りあえず就業者数の落ち込みがないことを確認してからにしたいようだ。

もっとも、その後の進捗が伝わって来なくなっているウクライナ情勢やイスラエルのガザ侵攻、そしてアルゼンチンの債務不履行問題などの相場を不確定にする材料も隠れており、安易なドル買いには慎重な人たちも少くないのだろう。東京時間の午後9時半までは動きにくい相場になりそうだが、午前中は中国の民間と政府それぞれの製造業 PMI の発表があり、やや下げている豪ドルに注目が集まりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。